



2013年 (平成25年) 12月2日 月曜日

鉄のふしぎ? 博物館

■16

正月にはぜひ、鎌倉の鶴岡八幡宮に初詣をしてください。大勢の人出で混雑します、道路は交通規制が厳しくなりますので、JRが江ノ電で行かれるほうが便利でしょう。鎌倉駅よりの徒歩10分ほどです。

鶴岡八幡宮の祭神は、応神天皇・比売神・神功皇后です。由緒は康平6年(1063年)8月に河内国を本拠地とする河

ステンレス鋼の灯籠 (鶴岡八幡宮)



ステンレス鋼の灯籠

内源氏二代目の源頼義が、前九年の役での戦勝を祈願した京都の石清水八幡宮護国寺を鎌倉の由比郷鶴岡に鶴岡若宮として勧請したのが始まりです。源頼朝は、治承4年(1180年)鎌倉に入るや直ちに御神意を伺って由比ヶ浜辺の八幡宮を現在の地に遷し、建久2年(1191年)には鎌倉幕府の宗社にふさわしく上下両宮の現在の姿に整え、鎌倉の町づくりの中心としました。

主題からそれてしまいが、境内にあるステンレス鋼の灯籠は河合鋼鉄(株)が昭和15年(1940年)に奉納したものです。そんな社名は聞いたことがないと言われる方でも「東郷ハガネ」のブランドはご存じでしょう。江戸時代から続く井坂屋は、鋼(はがね)の需要が高まることとヨーロッパの製鉄が日本より大きく進んでいたことに注目し、輸入を始めたのです。明治10年(1876年)「洋鋼」を東京で販売。当時国産の和鉄・和鋼と区分するため、輸入品はこう呼ば

衣川製鎖工業・衣川良介社長

東郷ハガネの看板



れています。

この会社は明治・大正・昭和とユニークな経営を続けてこられました。現在の社名は(株)カワイス「井坂屋」明治3年(1871年)、「河合鋼商店」、「(株)河合佐兵衛商店」河合鋼鐵(株)と何度も社名を変更され、1995年に住友商事と合併され(株)住商ハガネが誕生しました。

先駆的な多くの手法を

開発し実行されました。自社ブランド商品「東郷ハガネ」の誕生(明治39年)。商標とラベルの登録。「洋鋼虎の巻」発行。製品の陳列館を開設(明治41年)。「河合洋鋼商店規格」の「東郷ハガネ」の販売(明治42年)。「サビナイ東郷ハガネ」の取り扱いを始めたのは大正11年、現在の刃物用ステンレス鋼13クロム鋼です。英国で発明されたステンレス鋼で商標は「Stainless Steel」でした。これを「サビナイ」と一言で言い表した商品として売り出しました。「サビナイ東郷ハガネ」の販売に続き、昭和4年(1929)わが国で初めて、18-8ステンレスの取り扱いを開始しました。常に輝くと言う意味で「エバーライト スチール」としましたが、先に販売

した「サビナイ東郷ハガネ」と同様に、加工技術と用途の開発には、大変苦勞を重ねました。このステンレス鋼が順調に販売され始めたころでしょうか、昭和15年に建てられたステンレス鋼製の灯籠は今もピカピカに光りサビ一つない灯籠でした。奉納は日本橋河合佐兵衛、製作は新橋の徳増久五郎と銘板がつけられています。灯籠の設計は宮内省の技師、灯籠の材料は、向かって右側が英国トーマス、ファース社製にてハンダ付けです。左側は米国ユニーエス、スチール社製にてリベットが9200本使用されているそうです。

【参考図書】

河合鋼鐵111年のあゆみ 昭和58年8月1日

画像はカラーと交換しています。